

令和4年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

両城中学校区 校番 14 学校名 呉市立港町小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	目標、指標の設定には軸があり、その変動はなく、年度末まで、一貫としたものであると評価する。これを基本に、1年間、安定した学校運営等がなされたことが、伺われる。次年度において、この目標、指標がより発展的なものになることが期待される。教職員が設定された目標、指標を互いに認識していることも伺われる。
目標達成のための方策の適切さ	A	目標達成のための方策も評価できる。年間を通じて段階的、発展的方策を教職員が相互認識し、実践的な教育活動をしていることが伺われる。知力、体力、思考力を児童が養うという点においても評価できる。それぞれの場面で、各教職員が工夫された方策を採っていることは評価できる。目標達成のための方策を、各教職員が共有することは、大切なことであり、今後も継続していただきたい。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	自己評価の結果及び分析は、適切であると評価する。自己評価というものは、時として、その甘さが露呈したり、またお手盛りというものが伺えることがある。本校での自己評価は、自然さを感じられ、かつその自己評価を現実的に捉えていると思われる。大切なことは、自己評価を単なる自己評価として終わらせることなく、次のステップへの自己評価へ繋げることである。より良い自己評価とは何かということを、常に考えていくことを期待する。
今後の改善策(案)の適切さ	A	次年度への改善策には、確実な発展、進歩が伺われる。試行錯誤的要素は、それが教育であるがゆえに否定できないが、評価委員会としては、これを評価するとともに、これが継続されることを期待している。段階的かつ向上的改善策を引き続き模索していただきたい。改善策の方向性が一貫的なものであることも評価できる。
その他		新型コロナウイルス感染症が流行するなか、教職員の教育活動が困難であったことは否定できない。児童たちの心身の安定を考慮しながらの教育活動であったと思われる。教職員の努力と児童たちの頑張りを称賛する。いろいろな事象が生じても負けない人間であって欲しい。児童たちには、普通に勉強する、普通に友達と話をすること等の大切さを学んで欲しい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>本校の知徳体の取組について、目標、指標、方策、結果と分析、改善策等が適切であると評価をいただいた。学校関係者評価委員会が出されたご意見を再度確認し、今年度の改善策を踏まえて来年度の目標、方策、指標を作成することを大切にしていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着に向けて取組を継続するとともに、児童のつまずきを的確に把握し、個に応じた指導の充実を図っていく。 ・思考力・判断力・表現力の育成を目指し、自分の考えを根拠を挙げて説明する活動や目あてとまとめが対応した振り返りを大切に授業づくりを継続していく。 ・縦割り班活動を組織的・計画的に行う。活動では、自分の役割を明確にして責任を果たすこと、自分や友達のよさを認める場を設定することを全教職員で意識して取り組んでいく。 ・目標をもってやりぬく児童を育成するために、自分で目標を立て、その活動を振り返り、改善する場を設定する。全教職員で一人一人の児童の伸びや頑張りを肯定的に評価していく。 ・外遊びの機会を増やす取組や体育科の授業等で体を動かすことや集団遊びの楽しさを体験させることで体力の向上を目指す。保護者に啓発しながら、基本的な生活習慣「早寝・早起き・朝ご飯・読書」が身に付いている児童、メディアコントロールができる児童を育てていく。 ・災害時に避難する場所を確認したり、避難訓練の事前事後指導を丁寧に行ったり、意図的・計画的に行う。放送を立ち止まって静かに聞くことを全教職員で意識し、徹底していく。 ・毎月の企画委員会で、定期的に教育活動を見直すことで、児童と向き合う時間を確保する。
--------------------	--